

医師不足・偏在改善計画について

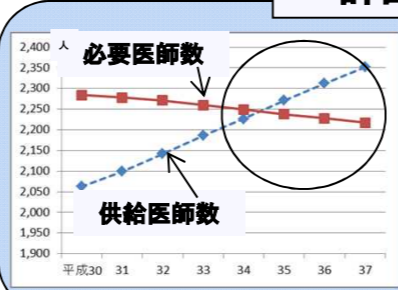
【第1章】

計画の策定に当たって～医師不足・偏在改善計画とは～

- 人口減少や少子高齢化が進む本県では、医師不足や医師の地域偏在・診療科偏在などの課題を抱えている。
- 医師不足を解消し、各二次医療圏の診療科ごとに必要な医師数を見極め、偏在を解消するため、行政、大学、医療機関、住民が担うべき役割を明らかにし、連携して取り組まなければならない。

計画策定の趣旨

計画期間



「医師数・患者数等医療需要調査」により医師の需給バランスが合致するものと推計され、その後、地域偏在等が解消されると見込まれる平成37年までの期間を計画期間とする。

目指す姿

- 患者の需要や疾病構造に適確に対応し、医師不足や医師の地域偏在・診療科偏在が解消
- ・県民が安心して質の高い医療が受けられます
- ・医師がその能力を十分に発揮し、生き活きと働いています
- ・魅力ある勤務や研修の環境が整い、県内外から多くの人材が集まっています

【第2章・第3章】

患者需要と病院需要の双方から見た各二次医療圏(病院)の診療科ごとの必要な医師数

患者需要調査

—医師数・患者数等医療需要調査—

- ◎目的
各二次医療圏の中で、入院などの一定の医療が完結するために必要な医師数を算定するとともに、医師の供給予測を実施



- ◎調査
・患者受療動向調査
患者の受療動向、医療圏域、疾病構造及び人口の将来推計を調査し、診療科別の病院・診療所の将来患者を推計
- ・医師労働時間調査
医師の労働時間、勤務状況及び診療患者数等を調査し、医療需要に対応する必要な医師数を推計

平成34年頃に、医師の総数として需給マッチングする見込み

一方、医師の地域偏在(秋田周辺医療圏以外の地域の顕著な医師不足)や診療科偏在などの課題が残る。

病院需要調査

—医師の充足状況調査—

- ◎目的
医師不足の深刻化を受け、年2回(4月と10月)、県内の全病院(75)を対象に、各診療科ごとの医師の充足状況を把握



- ◎調査
各病院の診療科ごとの常勤医師数、非常勤医師数、現状認識、医師不足の発生理由、必要とする医師数、1日当たり平均外来患者数、1日当たり平均入院患者数等を調査

各二次医療圏の病院における診療科ごとに必要な医師数を把握

圏域を越えた患者への診療等により、秋田周辺医療圏などでは、患者需要調査よりも必要な医師数が多い

患者需要調査と同様に、内科、外科、精神科、麻酔科などの特定の診療科の医師不足

【第4章】

目標医師数と年次計画医師数

目標医師数

平成34年頃に、医師が総数として充足されるという予測が示される一方で、医師の地域偏在や診療科偏在に対する課題解決への道筋及び目標値が示されていない。

課題を解決するために、各二次医療圏の病院における診療科ごとの目標医師数を設定

- ① 患者の圏域外流出や、病院経営の実態に鑑み、病院ニーズに基づいた必要な医師数を目標医師数とする。
- ② ①の目標医師数について、患者の受療動向や将来推計人口による経年変化を補足するため、患者需要調査の必要な医師数の経年変化率を乗じ、平成37年までの推移を算定

年次計画医師数

「医師数・患者数等医療需要調査」で推計した「供給医師数」(増加医師数)を基に、平成27、32、37年の各年限における二次医療圏の病院における診療科ごとの年次計画医師数を算定

課題解決のための「理想型」を描いた計画値

- 積算方法
目標医師数から現状値(常勤医師数+非常勤医師数)を差し引き、不足医師数を積み上げ、その不足合計における比率を各年限(例 平成24~27年)における増加医師数を乗じ、年次計画医師数を算定
※診療所に勤務する医師は現状値で固定するという条件設定

平成36~37年頃には、各二次医療圏の病院における医師が充足

【第5章】

課題解消のための各主体の方策

～目標医師数と年次計画医師数を達成するために～

これまでの方策

■行政(県・市町村)の取組

- ・医学部進学者を増やすための取組
- ・初期臨床研修医の確保・定着
- ・医学生等への修学資金貸与
- ・女性医師の離職防止・復職支援
- ・医療秘書の配置促進
- ・ドクターバンクの設置
- ・県職員医師の採用
- ・自治医科大卒医師の派遣
- ・寄附講座の開設
- ・住民への意識啓発
- ・各種手当(分娩手当・救急勤務医手当等)への補助
- ・総合医・家庭医の養成

■秋田大学の取組

- ・地域枠の創設と入学定員の増加
- ・寄附講座の推進、医師不足地域への医師派遣
- ・若手医師の地域循環型キャリア形成システムの構築
- ・総合医・不足診療科医師の養成

■医療機関(病院・診療所)の取組

- ・研修医を増やすための取組
- ・高校生1日医師体験の開催
- ・女性医師の就労環境改善
- ・医学生への修学資金貸与
- ・女性医師への就業相談窓口の開設
- ・医療秘書の採用
- ・病診連携(病院勤務医の負担軽減)

■地域住民の取組

- ・時間内受診、かかりつけ医の設置
- ・健診受診、健康講座の受講
- ・地域の医師への感謝

これから重点的に推進する方策

- 1 若手医師の地域循環型キャリア形成システムの構築
～システム構築支援から受入体制の整備に向けて～
- 2 県外からの研修医の確保と初期臨床研修制度の改善
～初期研修医から後期研修医までの確保・定着に向けて～
- 3 女性医師への更なる支援
～ライフステージに応じた女性医師の支援に向けて～